さんけん新聞

発　行
NPO法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-3421-3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

新型コロナウイルス感染拡大

外出自粛 三段峡閑散

全事業者休業　観光シーズン直撃

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めが掛からなくなった四月七日、政府が全国に緊急事態宣言を発出したのを機に、外出や営業の自粛要請、施設の閉鎖が加速し、春の観光シーズンを迎えた三段峡を直撃した。正面口と峡内の全事業者が休業に追い込まれ、さんけんは企画している七月までのイベントを見送る。

「再開が見えなくて厳しい」

観光客でにぎわうゴールデンウイークには飲食・土産物店、ホテル・旅館、黒淵荘、渡舟が休業、駐車場は閉鎖せず、料金を徴収しなかった。正面口には一日、五十台程度が訪れた。

三段峡観光同業組合は当初、四月の春祭りを中止し、各事業者へ安全対策の支援を計画していたが、広島県からの営業自粛要請が安芸太田町商工会を通して伝えられた。さんけんと同業組合はトイレなどに消毒液や石鹸を置き、清掃回数を増やし、間隔をあけて散策するよう注意書きを掲示した。

休業する店舗は「連休中の休業は影響が大き過ぎる。再開が見えなくて厳しい」と困惑している。三段峡ホテルの高下務さんは「予約が全然入っていない。国からの支援がなければ取り返しがつかなくなる。旅館組合は政府系金融機関が融資してくれないと言っている。安倍首相が言うのとは全く違う状況だ」と憤る。

イベント手探り

さんけんは四月に予定していた広島大学付属宮島自然植物実験所での勉強会と広島大学の出張自粛で三段峡での蘚苔類の調査が延期になった。七月までのイベントは自粛する。活動予定の助成事業は変更が余儀なくされ、申請の再提出などもある。助成団体も具体的な方針が決められず、宙に浮いた状態が続いている。

さんけん総会　縮小して開催

毎年五月、三段峡ホテルで開催しているさんけんの年次総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため縮小して開催する。事前に議案書、資料を送付し、書面およびWEBによって評決する。

清掃の会　最多二十七人が汗

春の三段峡清掃の会が四月五日、過去最多の二十七人が参加して三段滝―餅ノ木間で開かれた＝写真。積雪がなく例年より早い時期の開催になった。

これまでの清掃活動が評価され、三段峡観光同業組合から資金援助を受けた。六日は餅ノ木―聖湖間を理事ら四人が清掃し、土砂などを除去した。

三段滝から上流はこれまで、同業組合が中国電力から人材派遣の協力を受けて清掃していたが、新型コロナウイルスの影響で派遣が見送られ、清掃できなかった。

◇　◇

「お茶に最適」太鼓判

清掃には遠く尾道市から宇治園製茶の溝口義揮社長とNPO法人おのみち寺子屋杜仲茶プロジェクトチームの佐藤秀征さん、石松真さんらが参加した。

溝口社長は懇談会で「三段峡の湧水は茶の性質を隅々まで引き出す。硬度九の特長を際立たせるのに、有機の日本茶と杜仲茶は最適だ」と評価した。今後、水とお茶の新たな文化開発を目指す。

古い山道を踏査

五立の全景地点探る

三段峡の山を通っていた古い道を確認するため四月二十九日、柴木川第一発電所の水圧鉄管の側道を本宮炎理事長、松尾俊孝理事、本宮花奈さんの三人が踏査した。

以前、元三段峡観光同業組合長の栗原俊朗さんから「五立の全景は山からでないと見られない」と聞き、今回の調査になった。松尾理事は「五立が見えるポイントへ行けそうな稜線は見つけた。次回はアタックしたい」と、意気込んでいる。

一口メモ

▼百年のとき

四月に二回も積雪があり、春が一旦止まった感があった。追い討ちを掛けて新型コロナウイルスの感染が拡大。来峡者は少なく、痛手は大きい。スペイン風邪が大流行した百年前、熊南峰と斎藤露翠が出会い、この地を世に広めようと調査、発信に尽力していた。時の流れが感慨深い。

南峰と歩く ㉝　大岳（おおだけ）

逆光の中　岩と松林が神々しく

柴堰から耶源に到る随所から、対岸高く望めるのが大岳である。実際は山の中腹に突き出た岩場だが、あたかも山頂のように聳える。戦後には大「岩」と書かれたパンフレットなどがあり、そういう現地名が存在したのかも知れない。しかし、天狗ケ岳と同様、やや大げさな表現の「岳」は、庭園的な美意識による「見立て」と考えられ、欠かせない。

■上部が三分　鷹が巣

「上部が三分し、その隙間に木が立ちこめて、鷹が巣を構えている」と、熊南峰は記している。

大岳を見上げると大抵、太陽が視界に入る。逆光の中、あるいは残照の中で、三つの岩と松林のフォルムが実に神々しい。峡内で最も深く閉ざされたエリアでもあり、三段峡を統べる神が住まうとすれば、この辺りではないかとさえ感じる。

■三へ深いこだわり

岩が三分している「三」の意味も大きい。南峰は三段峡名の由来について「三峨、三段、三峡」に加え、「部分的にも各名勝とも不思議にも期せずして三段となっているものが大部を占めている」と書く。一九二二年発行の写真集は「三段峡三十三景」で、三にこだわる。三をモチーフとした、人々や日露戦争を体験した自身の苦しみ、悲しみから救う曼荼羅と捉えていたと言えば、言い過ぎか。（松尾　俊孝）

この人

「三段峡展」に携わる

今井　操さん

夫が安芸太田町の地域おこし協力隊に選ばれたのが縁で4年前に移住した。パタゴニア広島店のスタッフとして昨年9月、同店で開催した「三段峡展」に携わった。

さんけんとの出会いは事務局長への人生相談だった。相手の立場になって考えるまっすぐな性格。組織の財源獲得を考える上で欠かせない人材としてさんけんチームに加わった。

「三段峡は時間を忘れさせ、植物や清流からは優しいエネルギーがもらえる」。さんけんの活動に関わりながら、暮らしやすく、生きやすい地域づくりを目指す。（宏）